

NGO・NPOの活動事例から

水辺の環境保全活動に対する助成金「LOVE BLUE助成」で活動する2団体を紹介します。両団体とも「自分の目で見て学ぶ」ことを重視し、参加型の啓発活動を積極的に実施。また教育機関や漁業関係者とも協働し、地域を巻き込んだ活動を展開しています。



理事長
渡邊 勝美さん



特定非営利活動法人 アンダンテ21

〔活動名〕 協働と次世代育成をめざした
益田市水環境保全プロジェクト

島根県益田市 <https://www.andante21.org/>

「森～川～海」がつながる豊かな環境を地域の宝として次世代に継承するために

私たちは平成15年から島根県益田市で環境保全活動に取り組んでいます。当初は市内を流れる一級河川、高津川流域を中心に活動。22年度から5年連続で高津川が国土交通省水質調査の日本一になるなどの成果を得ました。

そして今、私たちが力を入れているのが、海岸線一帯での活動です。市の海岸は、高津川などの川が森から供給される上質な砂や栄養を河口域に運ぶことで、豊かな生態系が育まれています。「森～川～海」が繋がったこの環境は、地域が誇る自然環境資本であり、地域の環境保全を考えるうえで川と海を切り離すことはできないと考え、活動の場所を広げました。

地域の未来のために次世代への教育に尽力

市の海岸は景勝地としてはもちろん、釣りや海水浴などのレジャーにも適し



釣り教室の様子。まず海岸の清掃をした後で、釣りにチャレンジする

た素晴らしい環境ですが、残念ながらそれをまちづくりに活用できていません。また次世代への教育や継承システムが未構築なことも問題です。

そこで私たちは、昨年度から地域の親子を対象にした体験型環境教室を企画しています。体験の内容はシーカヤックや魚釣りなど様々ですが、全てに共通するのが「自分の遊び場をきれいにしてから」という考え方で、必ず清掃活動をしてから体験を始めます。海岸の地形によってごみの傾向が異なることもあれば、200kg以上のごみが集まることもあります。終了後のアンケートで「地域の水環境への関心が増した」と回答した人が9割を超え、イベントが環境を考えるきっかけになっている手ごたえを感じます。

また学校での水環境学習にも力を入れています。小学校の「総合的な学習

の時間」で地域の自然環境を取り上げる学校が多く、当団体が講師の依頼を受けます。私たちも地域の環境の未来には次世代の環境保全意識の向上が欠かせないと考えているため、できる限り依頼に応じます。一般向けイベントは一回限りがほとんどですが、学校は一年を通じて複数回授業があるため、フィールドでの生物採取、漁業見学、ごみ調査など様々なプログラムを実施。地域の環境問題に絡めたゴールを設定し、そこに向けて児童が自発的な問題提起や解決方法を発見できるよう、先生方と綿密な打ち合わせや中間評価を重ねてプランを組んでいます。

最終目標は地域住民が主体の環境教育システム

私たちは全ての活動を通じて、地

主な活動

★体験型環境教室

29年度は4回実施
・カヤック・生物採取体験 1回
・釣り教室 3回
参加人数 **149人**

★学校での水環境学習

29年度は小学校2校2学年、高校1校で**12回**実施
授業を受けた小学生が、清掃活動や体験教室に**50人**以上自主的に参加



小学生のフィールド学習。毎回、スイッチが入ったかのように集中した児童が何人か出てくるという

域住民や行政との協働に力を注いでいます。環境教室や学校教育においてもできるだけ地域の人や漁業関係者に関わってもらおう心がけています。そのかいあって、私たちが定期的を実施している河川清掃には、学校、自治会、飲食業組合、企業、行政など10団体以上、200人以上が協力してくれるようになりました。また学校教育で漁港見学や漁具についての講義などをしてくださる漁師さんは、最初はあまり積極的ではなかったものの、今では年度初めに「今年はやらんのか」と気にかけてくれるようになりました。最近では、当団体を介さずに、学校が地域の人に直接講師を頼むこともできるようになっています。

イベントにしても学校教育にしても、地域内の全てを当団体でやるのは不可

水辺の環境保全活動に特化した助成金「LOVE BLUE助成」

地球環境基金では、企業等のご寄付を直接助成に充てる「企業協働プロジェクト」を実施しています。その第一号として27年度からスタートした「LOVE BLUE助成」(※)は、一般社団法人日本釣用品工業会より寄付された資金をもとに、水辺の環境保全活動に取り組む団体に助成するものです。

日本釣用品工業会は「LOVE BLUE ～地球の未来を～」をスローガンに、「釣りで自然を汚さない」から「釣りが自然を再生させる一助になる」ように環境への意識を高め、世界に誇る「水辺の環境保全」を志向する社会貢献事業を実施しています。

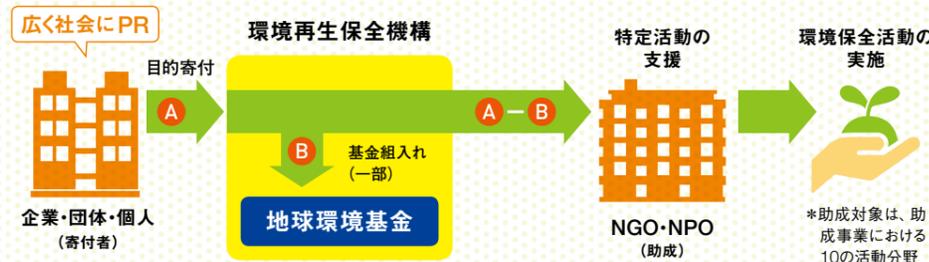
(※)平成27年度から地球環境基金との企業協働プロジェクト「つり環境ビジョン助成」が始まり、平成29年度から「LOVE BLUE助成」に名称変更しました。

★日本釣用品工業会HP <http://www.jaftma.or.jp/>



地球環境基金企業協働プロジェクトの仕組み

企業等(企業・団体・個人など)のご寄付を直接助成に充て、当該企業等からの拠出によることを明らかにして助成する、新しい仕組みです。



能です。残念ながら、依頼を受けても時間が足りずに断ることもあります。前述の学校が地域の人に直接講師を依頼するような、地域住民が主体となっ

た地域の環境教育システムが構築されていくことが私たちの最終目標だと考え、今後も地域を巻き込んだ活動を進めていきたいです。

小学校で授業を依頼している
益田市立安田小学校 教頭
田中 茂秋さん
に聞きました



海や川に対する情熱が子どもにも伝わる授業

以前から「地域の海や川について学ぶにはアンダンテ21さんをおいて他にはない」という評判を聞いており、平成27年度から授業をお願いしております。

アンダンテ21のみなさんは本当に海や川に対して情熱を持っており、それを自分の言葉で伝えようとしてくださるので、子どもたちが自然に話に引き込まれます。また教員では知りえない知識や、実物を見たり触ったりできることが、子どもたちの興味や関心を強くひくようです。

学校も児童が身近な自然環境を学ぶことは非常に重要だと考えています。しかし教員が独自に調べるところから始めるには、準備に時間がかかりすぎます。そこでアンダンテ21さんには、学校が計画した学習を深めるための人や物のコーディネートの第一人者になっていただき、学校と地域の方々、行政、その他関係する機関との橋渡しをお願いしたいです。そして小学生に多くの人と出会う場をつくっていただき、その方の生き方や情熱が伝わるような授業を期待しております。



漁協等の協力により底引き網漁船で海底ごみを引き揚げ、分別する。10年以上前に製造された缶などが回収されることも

船に乗り、海底ごみの回収作業を船上から見学。その後、引き揚げたゴミの分別作業を体験します。また同時に「海ごみの現状」「生物多様性」などをテーマにした講演やワークショップも行います。

回収したごみを目の当たりにした子どもたちからは「海底にあるはずもないプラスチックや金属が引き揚げられ衝撃だった」「分別して改めてごみの多さを感じた」などの声が挙がります。実際のごみを見ることで、説明するまでもなく問題の大きさを実感し、さらに分別作業でそのほとんどが自分たちの生活圏から出ていることも認識するため、ごみのポイ捨て防止など環境保全意識の改善につながります。

これまでの活動から、見えないものを「見える化」し、視覚に訴えることが、参加者の意識を変える上で非常に有効だと感じています。今後は関心が

主な活動

- 里海シンポジウムを開催
29年度は**220**人が参加し、環境大臣が講演を行った
- 海ごみ回収体験学習
29年度は2回開催し、**92**人が参加
回収したごみの量 **80kg**
(29年度イベント当日も含めおよそ一週間分)
〈内訳〉プラスチック33.6kg
スチール缶18.4kg(119個)
ペットボトル16kg
ビン7.9kg(60個)
アルミ缶3.1kg(99個) / その他1kg

低い人でも参加できる、楽しみながら学べる要素を取り入れた催しも考えていきたいと思えます。そして近隣県も含め、瀬戸内海沿岸でこうした活動を広げていくのが目標です。

環境問題は、私たちが普段何げなくしている行動とつながっています。現実を見て、想像力を働かせ、行動を変えることで、真に美しい瀬戸内海を次世代に引き継ぎたいと願っています。

特定非営利活動法人
グリーンパートナーおかやま

〔活動名〕海ごみから流域環境を考えるプロジェクト

岡山県岡山市 <https://green-partner.jimdo.com/>



理事長
藤原 瑠美子さん

見えない海底ごみを「見える化」し
瀬戸内海沿岸の市民の意識を変えていく

瀬戸内海はかつて赤潮が多発するなど危機的な状況にありましたが、事業者等に対する規制が強化されたことで、最近ではほとんど見られなくなりました。とはいえ、水質改善や生物多様性保護の面では必ずしも改善されたとはいえません。その原因は「ごみ」です。

瀬戸内海の海岸や海面、海底には、瀬戸内海に注ぐ川の流域からの生活ごみが流入しています。特に海底ごみは約1万3000トン、25メートルプールの水約43杯分(※)も堆積していると推計され、さらに増え続けています。

瀬戸内海をはじめ全国の海では、海岸やその周辺のごみ回収や清掃活動は活発に行われているものの、残念ながら海底ごみの回収を実施しているところは多くありません。そもそも海底の様子は目に見えないため、海底に大量のごみが堆積していることはほとんど知



220人が集まった昨年の里海シンポジウム。パネルディスカッションの様子

まは「海底ごみ」の存在を知ってもらう

人の目に触れにくい海底ごみの問題を多くの市民に知ってもらい、日常生活で何げなくごみをポイ捨てし、用水路や河川を通じて海に流出する。それが現状です。 ※幅12メートル、深さ1メートルの設置

まずは「海底ごみ」の存在を知ってもらう

当団体では、9年前から毎年「海ごみ回収体験学習」を実施しています。海の環境に興味のある小学校3年生以上であれば誰でも参加できます。場所は瀬戸内海沿岸で、まず底引き網漁

自分の目で見れば問題の大きさを実感できる

シンポジウムで講演された九州大学 応用力学研究所 教授 磯辺 篤彦さんに聞きました



研究者と市民、行政をつなぐ役割に期待

グリーンパートナーおかやまさんとの出会いは、2年前、依頼を受けてシンポジウムで海洋プラスチック汚染の研究を紹介する講演をしたときです。大勢の一般市民の方や、地域行政や政治家の方々も足を運ぶシンポジウムを主宰しておられ、多様なステークホルダーを巻き込んだ活動ぶりが印象的でした。またシンポジウムだけでなく、実際に海岸での海ごみ調査清掃活動などを活発に行われているようで、とてもバランスのとれた良い活動をされていると思います。

私たち研究者は、研究成果を英語論文にして公表し、世界の同業者に評価していただくことが仕事です。しかし海ごみ問題は、行政や市民にいち早く研究成果を届ける必要があります。研究者以外はアクセスしにくい論文だけでは、私たちの成果が実際の現場になかなか届かないというもどかしさを常に感じるところです。グリーンパートナーおかやまさんのようなNPO・NGOには、研究者と市民や行政をつなぐ役割を今後とも大いに期待しています。

平成30年度は、誌面で紹介した2団体のほかに、下記の団体が「LOVE BLUE助成」を受けて活動しています。

団体名	所在地	活動名	団体ホームページ URL
(特非) 美ら海振興会	沖縄県那覇市	沖縄慶良間諸島のチーピンエリアのサンゴ礁再生環境づくりプロジェクト	http://www.churaumishinkokai.com
(特非) くすの木自然館	鹿児島県始良市	鹿児島湾奥地域における湿地帯保全活動	http://kusunokishizenkan.com/
次世代のためにがんばろ会	熊本県八代市	八代海河川・浜辺の大そうじ大会と干潟保全に向けた青少年ワークショップ	http://www.ganbarokai.jp/
やったらうde高島	長崎県長崎市	珊瑚ツーリズムの創造	http://nagasakist.web.fc2.com/de/
(一社) ふくおか FUN	福岡県福岡市	福岡の海における生物多様性および水中環境保全のための活動	http://fun-fukuoka.or.jp/
(特非) 神戸海さくら	兵庫県神戸市	須磨海岸における地域住民および海岸利用者の参加型清掃活動とマナー意識向上による持続的な環境保全活動	http://k-umisakura.com/
(特非) 能登半島おらっちゃん山里海	石川県珠洲市	能登の「里海」文化の継承と保全	http://www.satoyama-satoumi.com/oraccha
(認特) 未来の荒川をつくる会	山梨県甲府市	名勝・昇仙峡から甲府市を縦貫する荒川及びその支流の河川清掃	http://www.mirainoarakawa.com
全国川ごみネットワーク	東京都江戸川区	水辺のごみ削減学習プログラムの構築と実践	http://kawagomi.jp/
(特非) 公益のふると創り鶴岡	山形県鶴岡市	鶴岡市内川流域の繁茂した藻刈りを市民参加型で実施する体制構築プロジェクト	http://k-tsuruoka.com